

発行 - 2026年3月30日

<https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp/>

編集 - 群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会

前橋市荒牧町4-2 (群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180

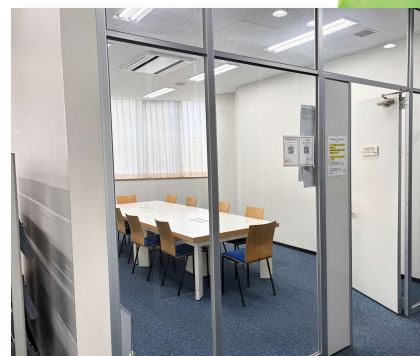


PHOTO SPOT

高崎健康福祉大学図書館



当館は、本館、分館、薬学部図書・資料室（以下、薬図）の3館を一つの組織として運営しています。ここでは、本館と薬図を紹介します。分館については「図書館訪問」をご覧ください。本館はガラス張りが特徴的な2号館1階に、薬図は薬学部棟の7号館4階にあります。本館は教養書も幅広く収集し、薬図では専門書を厳選して配架しています。各館ともに新着図書コーナーを設置し、特集コーナーでは毎月テーマを変えて展示を行っています。また、電子書籍などの整備も進め、多様な資料の利用促進を図っています。情報検索コーナーの他に、コンセントが備え付けられた閲覧席もあり、ノートPCなどの利用にも適しています。本館には「共同研究室」と「グループ学習室」があり、学生や教職員に広く利用されています。薬図には自習室が隣接しており、学修に励む学生の姿が見られます。今後も、利用者の皆様の教育・研究活動の一助となるよう努めてまいります。



CONTENTS

■ 研究会報告	2
■ 報告	8
■ 図書館訪問	
「高崎健康福祉大学図書館分館」編	9
■ 群馬県内大学動向	11
■ 編集後記	11

研究会報告

大学図書館研究会
(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会共催)

○令和7年度第2回大学図書館研究会・第1回群馬県図書館協会専門研修

日 時： 令和8年3月4日（水）14:30～16:00

場 所：群馬大学（荒牧キャンパス）情報学部10号館 121講義室

参加者：36名（大学図書館：11名、学校図書館：6名、公共図書館：7名、一般：12名）

内 容：講演「本を届ける仕事：本屋と図書館～読者へつなぐ、地域をつなぐ～」

講 師：本屋水紋 店長 小澤亮太氏



【概要】

2025年7月に前橋市中央通り商店街に「本屋水紋」を開店した小澤亮太氏を講師にお迎えし、講演会「本を届ける仕事：本屋と図書館～読者へつなぐ、地域をつなぐ～」を開催しました。出版取次会社、地域おこし協力隊、本屋開業といった経歴を踏まえて、出版業界や書店を取り巻く現状について紹介されました。その中で、前橋市街地で事業を継続するため収益性を見据えた書店運営について語られたほか、小中高生の不読者率や平均読書量のデータを提示しながら、過去30年で「本を全く読まない」生徒数は減少していることや、「読みたくても本が読めない人には本をよむ環境を提供する」という水紋での取り組みも紹介されました。参加申込者から事前に寄せられた質問にも丁寧に回答しながら、図書館員と重なる視点や取り組みを通じて、本屋と図書館が果たす役割や可能性について多様な話題が提供され、大変示唆に富んだ講演となりました。



【講師：小澤亮太氏】



【会場：群馬大学】

【参加者の意見等】

- 学校図書館に勤務している。今年度後半は図書室に来る生徒も激減し、他校も同じような現象がある。4月からの読書を促す活動の参考にしたい。今日は大変参考になった。
- 本屋の閉店が増えている昨今、取次業から1年足らずで開業した行動力に驚いた。町の活性化を含め、今後とも頑張っていただきたい。
- 中心街に少しずつ活気が出てきて嬉しい。今度ぜひお店に寄らせていただきたい。
- 図書館にしながら書店や取次のことをあまり知らなかったが、今回内情を知ることができて大変興味深かった。
- 流通や読書量に関するデータ、選書のお話など図書館のあり方としての学びも多く、大変興味深く拝聴した。
- 水紋さんにも数回行きましたが、独立系書店によくある入りづらさが無く、今回お話を聞いて、選書やイベントなど様々な工夫をされているのだと感じた。

CHECK 本屋水紋SNS

@books_suimon https://www.instagram.com/books_suimon/@books_suimon https://x.com/books_suimon

研究会資料 (1)

本を届ける、読者へつなぐ




本屋 水紋

小澤 亮太

小澤 亮太 (1993年生まれ 32歳)

前橋市生まれ。高校まで前橋で育ち、大学進学で上京。
 (株) トーハン (出版取次会社) に入社。
 7年間のうち6年書店営業、1年店頭企画に従事。
 2024年2月に退職し、地元である群馬にUターン。
 2024年6月より前橋市中心市街地分野
 地域おこし協力隊を委嘱。
 (委託先: 前橋まちなかエージェンシー)
 前橋まちなか新聞の取材、執筆や各種イベントの
 事務局員として活動
 2025年7月に中央通りに「本屋 水紋」を開店







【本屋 水紋】

- ・2025年7月6日開店 群馬県前橋市千代田町2-12-4 藤屋ビル1階
- ・水に浮かぶ波紋のように本を読んだときの心の動きを表した

地域おこし協力隊から本屋開店までの流れ①

- 2022年 4月** ● 初めての異動。新設の店頭企画の部署へ。「優秀な人材を集めた」と言われ、楽しみが高まる
- 8月** ● 体調を崩す。医師から1か月の休養を指示され、計1か月半ほど休職する
- 11月** ● 異動を希望し、営業業務へ復帰させてもらう。四国支店へ
- 2023年 12月** ● 再び体調を崩し、休職
 - ・二部署続けて、そして志願した異動先でも体調を崩したこと
 - ・いつかは実家のある前橋に何らかの形で戻ろうと思っていたこと
 - ・2024年でちょうど30歳を迎えることを考慮して退職することを真剣に考える
- 2024年 2月** ● 退職。東京や前橋、その他の地方都市などいくつかの移住先、転職先を検討する

地域おこし協力隊から本屋開店までの流れ②

- 2024年 3月** ● やってみたいと思っていた書店開業について真剣に考え始める
いくつかの地方都市のまちづくりや補助金制度について調べ始める
- 4月** ● 前橋市に問い合わせ。前橋まちなかのまちあるきをしてもらう
 - ・前橋まちなかエージェンシー (MMA) を紹介してもらう
 - ・地域おこし協力隊が前橋市にもあることを知る
- 5月** ● 協力隊の募集が始まっていたので、応募。無事に採用される
- 6月** ● 前橋市から委嘱されて協力隊として活動を開始する
- 2025年 7月** ● 「本屋 水紋」開店予定



地域おこし協力隊の活動①

【内容】

- ・全国から家に眠っている本を集め、新しい読み手との縁をつなぐ「本のやり取り」や「トークショー」を開催。
- ・県立図書館ブースや換字堂でのサイン会、マルシェなど関連イベントも多く開催。
- ・延べ63,600人が来場し、賑わった

【感想】

- ・本への興味、関心は失われていない
- ・イベントきっかけでまちなかに訪れた人も多く、まちなかを知ってくれたきっかけになっていた

地域おこし協力隊の活動②

七夕 よりみちマルシェ



七夕まつり同日に広瀬川河畔で開催したイベント。ワークショップやスタッフ管理を担当。

太陽の会 事務局



一般社団法人化した太陽の会の事務局員として各種連絡、調整、当日の運営などを担当。

まちあるきツアー



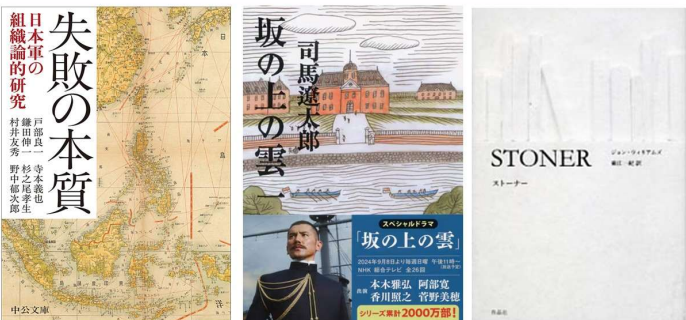
前橋の取り組みを視察に来た団体へのまちあるきツアーを担当

読書経験・体験

- 小学生** ● 『かいけつゾロリ』や学習漫画『日本の歴史』を学校の図書室で借りる
桂宮公民館の図書館、市立図書館にもよく行っていた
- 高校生** ● 自分のお金で雑誌を買ったり、本を買ったりするようになる
- 大学生** ● 大学図書館の充実ぶりに圧倒され、色々借りる。欲しい本は生協で購入。
- 社会人** ● 就職し、むしろ読書量が増える。
『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』の逆を行く。
概ね書籍で年間60冊から70冊程度。月に5、6冊、週に1、2冊のペースで読んでいる。

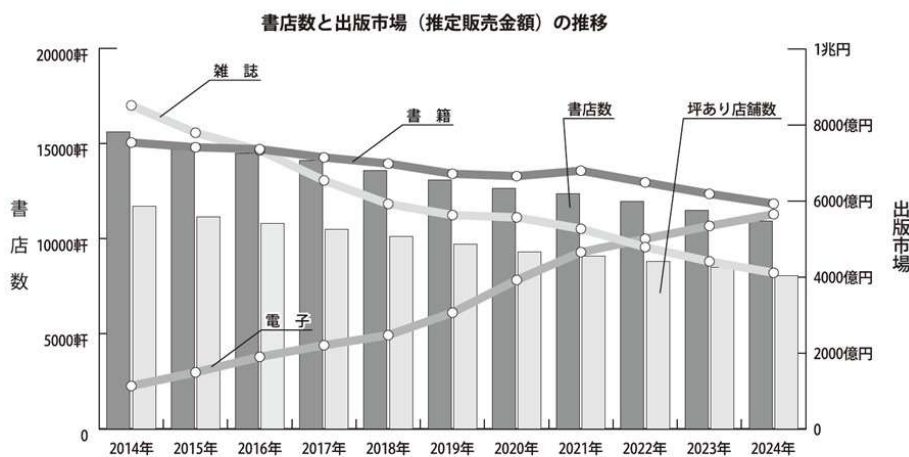
研究会資料 (2)

心に残る本たち



本屋の現状

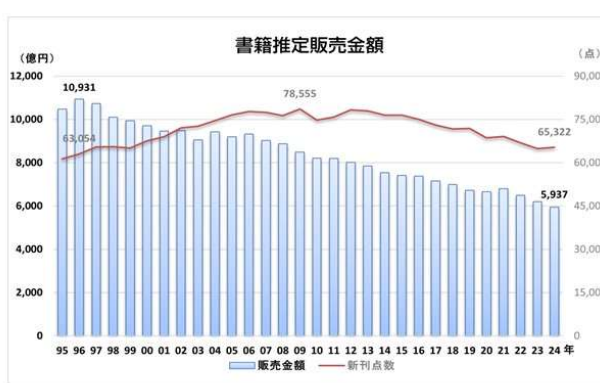
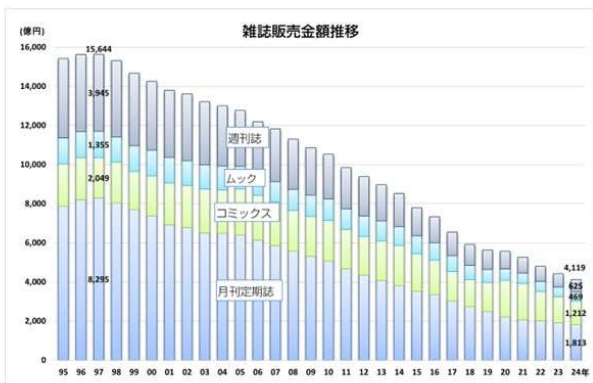
現状確認① 書店数



書店数、販売金額ともに右肩下がり

<https://www.bunkanews.jp/article/415423/> 『文化通信』2025年3月18日掲載【書店振興レポート】～業界の現状と直面する課題～ より引用

現状確認② 出版



雑誌・書籍とも販売金額は右肩下がり
書籍の出版点数は単純計算で一日180点

いずれのグラフも出版科学研究所より

研究会資料 (3)

それでも本屋は求められている？

- ・「独立系書店」の増加
書店減でも存在感増す「独立系書店」その数、全国で300超 (※1)
読書離れといわれる中、年間約100店増！ (※2)
⇒2025年上半年期だけで52店舗開店
- ・「独立書店ネットワーク」の開設
- ・書店活性化プランの発表 (経済産業省)
「書店を活用した地方創生の取組への支援」が明記

※1 <https://www.asahi.com/articles/ASSQ3FW1SQQXIF00CM.html> 『朝日新聞』2024年11月26日掲載 「書店減でも存在感増す「独立系書店」」
 ※2 <https://www.gbnet.co.jp/news/2978/> GB HYPより。読書離れといわれる中、年間約100店増！個性が光る「独立系書店」の現状とは？

日々の運営

本屋の一日

- 9:30 ● お店へ。お釣り準備、掃除、品出し (できるだけ開店時間に終わらせる)
- 10:00 ● 開店。メール、メッセージなどに返信。一段落ついたら上毛新聞を読む
- 13:00 ● お客様が落ち着いたらここで昼食
- 15:00 ● お客様対応をしながら、色々な仕事 (執筆、イベントの準備、各種連絡)
- 17:00 ● 売れた商品や各種案内を見ながら、発注を考える
- 18:30 ● コーヒー関連の片付けをし始める
- 19:00 ● 閉店。簡単な片付け、レジ締めをして帰宅

選書基準

【その本は面白い？ お客様に伝わるか？】 = 自店舗

- ・まずは自分が面白いと思えるか。そして常連様の顔を思い浮かべつつ、一見様にも伝わるように
- ・老若男女が訪れるので、ジャンルや版型などが過剰にならないようバランスを取る
- ・棚ありきではなく、本ありきで考える。棚はどうにでもコントロールできる
- ・「売りたい本」と「売れるだろう (≒売れる) 本」の区別を明確にしておく

【当店の棚に必要な？】 = 他店舗との差別化

- ・他の本屋さんに平積みになっているものを深追いしない
- ・一方でベストセラー、人気の商品はお客様に安心を与えるもの。必要ならば仕入れる
- ・前橋のまちなか (商店街や文学館が近くにある) で開店している意味をとらえる
- ・棚の空気を入れ替える (少し入れ替えるだけで景色は変わる)

棚を作る



前橋文学館の企画展、萩原朔太郎賞受賞作の展開。受賞作は売り伸ばさないといけない。

勝手に「前橋視察セット」と呼んでいる4冊。まちづくり、前橋をしっかりと前面に出す

事業継続のための 独自性と事業性

【独自性】 イベントの開催

出店イベント
都市と路の再編集
2025
11.8 (土)
会場 本屋 入場料 2,000円 (ドリンク別)
開演 19:30-21:00
協賛 前橋市文化センター (主催) / 協賛 (共催)

協賛 協賛 協賛
徳谷祥太郎 小澤亮太 田中隆大
本屋 本屋 本屋
協賛 (共催) 協賛 (共催) 協賛 (共催)

【独自性】 イベントの開催

私たちは、ずっとここにいた。
BLUEBOY
11.14
私たちがいる場所がここにある。

研究会資料 (4)

【独自性】 イベントの開催



【イベントの効力】

- ・ 当店のことを知ってもらうきっかけ
「また来てみよう」と思ってもらえる可能性
- ・ イベント参加料による粗利の確保
- ・ 付随する本、ドリンクの販売

【事業性】 粗利の改善と客注・定期

- ・ 買切仕入による粗利改善
買切により、通常の書店より5%~7%より粗利を改善
- ・ お客様注文の積極的な受注
- ・ 雑誌の定期購読の受注
開店以来、400冊近く受注。
雑誌の定期購読→来店→雑誌以外の売上に繋がる

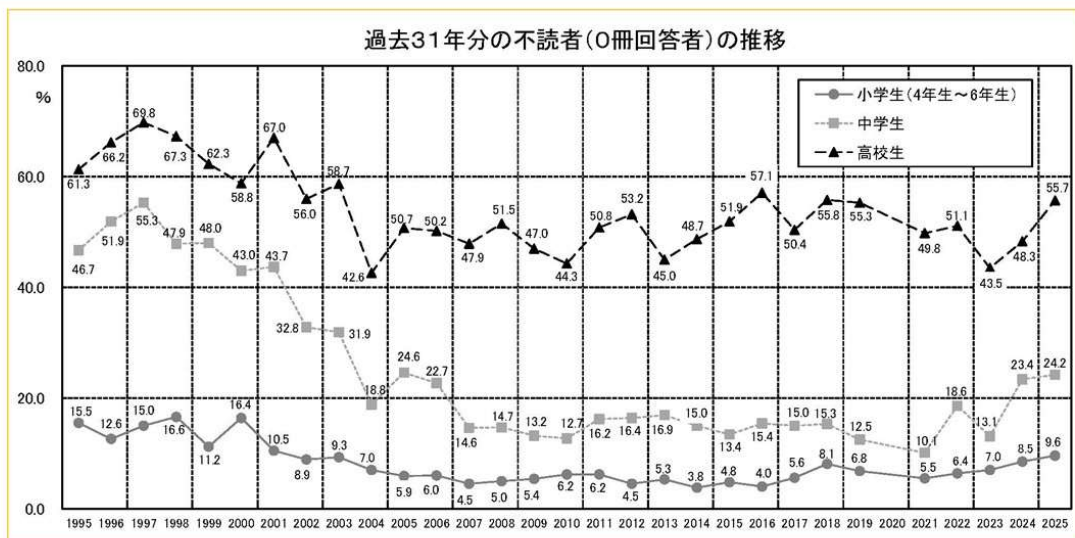
【事業性】 その他

- ・ 各種団体からの注文、配達
・ 前橋市立図書館 ・ 前橋文学館 ・ 群馬県都市計画協会
- ・ 執筆
第34期上毛新聞
オピニオン委員
- ・ 講義



図書館と本屋

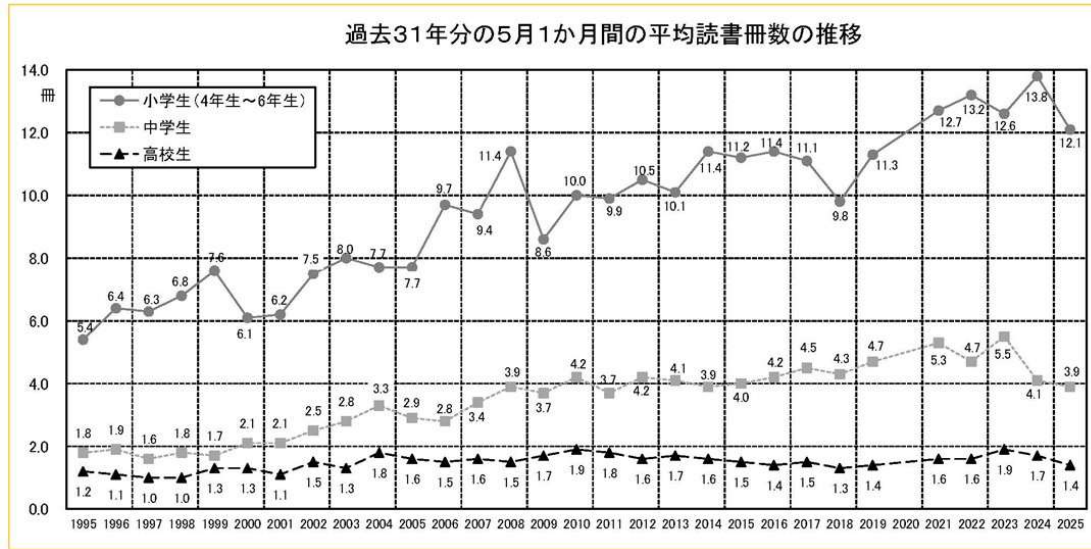
【読書推進】 不読者率割合



全国学校図書館協議会「第70回学校読書調査」より引用

研究会資料 (5)

【読書推進】1か月の平均読書量



全国学校図書館協議会「第70回学校読書調査」より引用

【読書推進】2つのデータから考えるべきこと

【分かること】

- ・過去30年のデータを見ると「全く本を読まない」生徒数は減っている
- ・特に小中学生の読書量は非常に増えている（朝の読書、ピリオリバトルなど）
- ・進学をすることで本を読まなくなる（部活、勉強、他の楽しいこと）
- ・想像ではあるが、高校時代の読書週間がそのまま引き継がれるのでは…

【考えるべきこと】

- ・不読者に対する読書推進
- ・一方で小中学生の多くはすでに本を読む習慣がある生徒が多い
- ・高校生以降は「本を読む」こと以外にやるべきこと、やりたいことに溢れている
- ・本を読みたい人、家でなかなか読み進められない人に環境を提供する

【読書推進】当店の場合

ただ本を読む会



【ただ 本を読む会】

- ・「本を読みたいけど、SNSやテレビばかり見てしまう…」
 - ・「つついスマホを触ってしまう…」
- というお客様のお声から生まれた会。

お客様と一緒に30分～35分ひたすら本を読む
 （基本的にはスマホを触ったりしない）
 残り時間は今読んでいた本の紹介をしあう
 ⇒これまで毎回満員になっています

【そのほか】文部科学省 図書館・書店等連携実践事例集から

【地元書店からの購入】

- ・鳥取県、山形市、宇佐市など
- 特に鳥取県立図書館では96%が地元書店からの購入
- 書店から図書館の見計らい、図書館員が本屋に来店して選書など実物を見たうえで資料の購入につなげる

【図書館の皆様へ】

「本を届ける、伝える」仲間です。ぜひ一緒に色々取り組んでいきましょう！！

事前にいただいた質問でここまで答えていないもの

図書館がどの世代も過ごしやすそうと思ってもらえるにはどうすればよいか？

それぞれにニーズに合わせた雰囲気や場所を作るしかないのでは

前橋出身とのことですが、本屋を開店してからの商店街の変化はあるか？

私が高校生のときに比べれば雲泥の差。市のデータからも交通量が増えています

「地域をつなぐ」ために図書館が連携すべき施設や団体はあるか？

「べき」論ではなく、地域をつなぐためには可能な施設、団体と協力

「本屋」をやりたい

- ・本は読んだ方が豊かになる
- ・本屋は街にあったほうがいい

報告

第21回群馬県図書館大会

第21回群馬県図書館大会が「マンガへのアプローチ」をテーマに集合研修方式にて開催されました。

日時：令和7年10月30日（木）11:00～16:30

会場：群馬県立図書館3階ホール（前橋市日吉町1-9-1）

内容：（1）式典・表彰式
 （2）事例報告 蔵書再構築～マンガ文化拠点の挑戦～（坂庭健司氏/太田市新田図書館館長）
 （3）講演 図書館におけるマンガの可能性（みさき絵美氏/マンガ司書）

大会報告書が群馬県立図書館ホームページにて公開されています。

<https://www.library.pref.gunma.jp/wysiwyg/file/download/163/6917>

太田市新田図書館は、建て替えにともない「マンガを揃える」という特徴を打ち出し注目を集めた図書館です。マンガの選書基準なども言及されています。みさき氏の講演では、マンガを取り巻く国内外の状況や、県内図書館巡りの様子が紹介されたほか、司書としての視点から、選書、装備、管理、活用といった様々な論点が語られています。蔵書にマンガを取り入れる際の参考に、ぜひご覧ください。

報告

全国大学ビブリオバトル2025関東Dブロック決戦

全国大学ビブリオバトル2025関東Dブロック予選及びブロック決戦が開催されました。

主催：群馬県大学図書館協議会、共催：高崎商科大学図書館サポーター

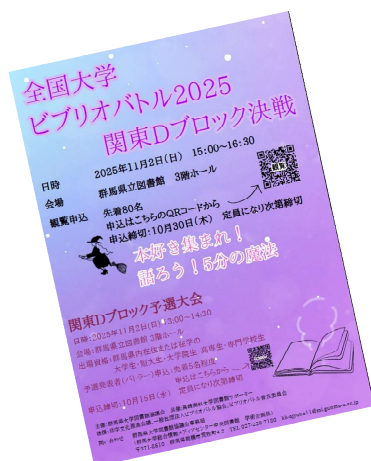
日時：令和7年11月2日（日）予選 13:00～14:30 / 決戦 15:00～16:30

会場：群馬県立図書館3階ホール（前橋市日吉町1-9-1）

予選紹介本：『とんこつQ&A』今村夏子（著）講談社、『花田少年史』一色まこと（著）講談社、『知りたいこと図鑑』みつけ（著）KADOKAWA、『屈辱ポンチ』町田康（著）文芸春秋

決戦紹介本：『流星の絆』東野圭吾（著）講談社、『悪い本』宮部みゆき（著）岩波書店、★『とんこつQ&A』今村夏子（著）講談社、『パリのすてきなおじさん』金井真紀（著）柏書房、『倒錯の帰結』折原一（著）講談社

★チャンプ本を獲得したバトラー小此木陽菜さん（テクノ・ホルティ園芸専門学校）は、11月23日にアルカス佐世保にて開催された「全国大学ビブリオバトル in ながさきピース文化祭2025」へ出場しました。



関東Dブロック決戦出場の皆さん

全国大学ビブリオバトル2025本戦、各地区の予選会開催レポートがこちらからご覧いただけます <https://zenkoku.bibliobattle.jp/records2025>

図書館訪問

第4回 高崎健康福祉大学図書館分館 編

他大学の図書館をご訪問して館内をじっくり見せて頂く「図書館訪問」企画の第4回目は、高崎健康福祉大学図書館分館の様子をレポートします。

2月26日(木)に、前回の訪問先の群馬パース大学附属図書館の職員様と編集委員がお伺いし、館内を見学させていただきつつ、情報交換もさせていただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

明るく落ち着いた雰囲気の館内は、バリアフリーに配慮されていて、利用者が滞在しやすい環境が整えられていました。

訪問レポート

こちらの分館は、2024年9月に保健医療学部5号館1階に開館した、開館一年半の新しい図書館です。館内は、全体的に空間が広く確保されていて、とても過ごしやすそうです。カウンター付近には図書消毒機が設置されていました。



図書館入口



カウンター



図書消毒機

集密書架の動きが滑らかで音が静かなことに見学者から驚きの声が上がっていました。

図書は一部を除き、看護学図書分類を採用して配架されていて、利用者が目的の資料を見つけやすいよう、細やかに表示が施されていました。



集密書架



書架



書架の表示



問題集コーナー



雑誌コーナー



視聴覚資料

図書館訪問

第4回 高崎健康福祉大学図書館分館 編

(つづき)

書架の側面には、展示用の棚が付いていて、目を引きました。また、コピー用紙を差し替えて使える表示板がとっても便利そうで、真似をしてみたい工夫でした。

iPadが専用のケースにセットされた検索コーナーが2カ所に設置されていました。資料検索は、スマートフォンからも可能になっています。

職業体験の中学生による展示コーナーも可愛らしかったです。



書架側面の展示



書架側面の表示板



新聞コーナー



検索コーナー



検索コーナー



職場体験の中学生による展示

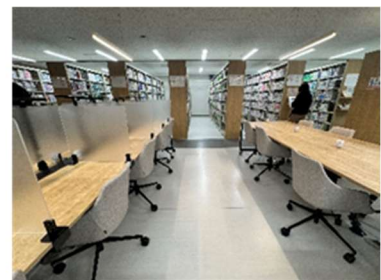
明るい木目調で統一された閲覧席がとっても快適そうで、学生が勉強や研究に集中できる環境が整えられています。



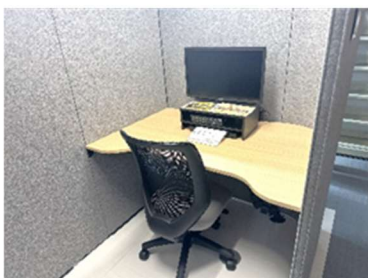
キャレル閲覧席



カウンタータイプの閲覧席



閲覧席



AVブース



(次ページへつづく)

図書館訪問

第4回 高崎健康福祉大学図書館分館 編

(つづき)

今回特別に、カウンターの裏側まで見せていただくことができました。A4サイズのファイルが置けるように専用の棚をつくられていたり、PCモニターが回転できるようになっていたり、細やかな工夫がされていました。返却ポストの裏側もみせていただきました。



カウンターの内側



回転できるPCモニター



返却ポストと裏側

群馬パース大学附属図書館：佐藤様のコメント

同じ医療系分野で、新しい図書館ということですのですごく気になっていたもので、今回訪問させていただくことができ、大変刺激になりました。什器はもちろん、利用者目線で随所に細やかな気遣いがされていて、「帰ったら真似させてもらおう」と思うことが多くありました。学生や教員の“あるある”なども共有することができ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。お忙しい中、長時間ご対応いただきありがとうございました。

群馬県内大学動向

桐生大学・桐生大学短期大学部 学校法人桐丘学園（群馬県みどり市）が運営する桐生大学の大学名を2026年4月から「ぐんま未来大学」に、桐生大学短期大学部を「ぐんま未来大学短期大学部」に変更。医療保健学部（栄養学科、看護学科）は、2027年4月に新設される太田キャンパス（太田駅南口前）へ移転し、スポーツデジタル学部スポーツデジタル学科（仮称）も開設予定。

群馬パース大学 学校法人群馬パース大学（群馬県高崎市）は、2026年3月13日に前橋市と包括連携協定を締結。新キャンパスが旧市立中央小学校跡地（JR前橋駅近く）に設置され、体育館を改修した施設「Well-B Lab.（ウエルビーラボ）」は2026年度より理学療法学科の学内実習施設として活用される予定。また、新学部「保健栄養科学部医療栄養学科（仮称）」を2028年度に開設予定。

東京福祉大学 東京福祉大学を運営する学校法人茶屋四郎次郎記念学園（東京都豊島区）は、2026年1月26日に学校法人開智学園との合併を前提とした協定書を締結。茶屋四郎次郎記念学園は学校法人開智学園の傘下となり、新体制で新たな学校法人・大学として学部の新設や改変、法人名称や大学名の改称が検討されている。

編集後記

書店閉店のニュースが続く中、昨年前橋市街地に開店した本屋水紋の小澤さんの活動がずっと気になっていました。店内での読書会や落語会などイベント開催、全国各地へのイベント出演、執筆、前橋市立図書館とのコラボ企画など、お一人でよくぞこんなに！というほど精力的に活躍されています。図書館とも積極的に関わっていきたい、と仰っていました。これから大学図書館とも面白い展開が見られることを期待しています！